

令和8年度 新潟県工業技術総合研究所評価委員会〈議事要旨〉

■日 時：令和8年6月9日（火） 13:30～15:30

■会 場：工業技術総合研究所 講堂

■評価委員：

外部委員（順不同）

（敬称略）

企業及び団体名	役 職	氏 名
株式会社中野科学	代表取締役会長	中野 信男
ミズホ株式会社	取締役 五泉工場長	川瀬 和彦
株式会社山口製作所	代表取締役	山口 貴史
新潟大学	社会連携推進機構 副機構長・特命教授	阿部 和久
三条市立大学	産学連携センター長	陣内 純英
新潟工科大学	地域安全・安心研究センター長・工学部教授	佐藤 栄一
長岡技術科学大学	副学長 技学研究院 電気電子情報系 教授	岩橋 政宏
産業技術総合研究所	研究戦略本部 地域部 地域連携推進室 室長	山村 昌平
関東経済産業局	地域経済部 産業技術革新課長	荒井 大悟
第四北越銀行	コンサルティング事業部 担当部長	澤田 篤志

内部委員

所属	役 職	氏 名
にいがた産業創造機構	産業創造グループディレクター	阿部 久紀
新潟県産業労働部	創業・イノベーション推進課長	藤田 拓志
新潟県工業技術総合研究所	所長	田辺 寛

■議事（１）中期計画の概要

（２）中期計画の進捗状況

○令和7年度事業実績報告

（３）令和8年度事業について

○令和8年度事業計画

委員からあった主な意見と当所の考え方

※ →は当所の考え方

意見交換 令和7年度事業実績報告

○目標未達の「技術支援業務に対する満足度」について、アンケートの意見に「試験条件の説明や信頼性に関する情報提供が不十分」とあったが、具体的な事例をあげて説明をお願いしたい。

〈事例〉

- ・校正されていることを前提に機器を利用したが、実際には校正されてなく、事前の説明もなかった。

- ・校正実施の有無に関する表示が、わかりにくい場所にある機器があった。

→機器校正が必要な試験、測定を把握し確実に説明するように努める。

○「技術支援業務に対する満足度」は設定した目標値が高すぎて目標が未達だったのではないか。目標値設定の根拠を教えてください。

→過去4年間のアンケート結果の平均値を用いてそこから少し上に設定した。

○技術シーズ創出件数の定義について、もう少し詳しく説明して欲しい。

→技術シーズ創出件数は、当該年度に実施した研究開発テーマの数としている。通年で取り組む研究は技術シーズが創出される研究に該当するものとして1テーマを1件とカウントしている。それ以外の調査研究等（技術課題探索）では、FSを実施し特許出願に至ったテーマ等は、シーズ創出が認められる研究としている。

○同様な研究テーマの場合、「技術シーズ創出件数」だけでなく「研究開発プロジェクトの立上げ件数」にも当てはまるとすると、二重にカウントされるものがあるのではないか。

→「研究開発プロジェクト立ち上げ件数」と「技術シーズ創出件数」については、一部重複するものがある。その理由は、「研究開発プロジェクト立ち上げ件数」は国の競争的資金や財団法人などの補助事業に申請した件数をカウントし、申請したものが採択されて実際に研究に取り組んだ場合は、「技術シーズ創出件数」にカウントしているからである。

○令和7年度のオープンイノベーション（研究開発プロジェクトの立上げ、企業・大学等のマッチング）は過去の実績と比較して非常に良い結果となっているが、その理由を教えてください。

→理由の一つ目に、中期計画の初年度で、全職員が目標達成に向けて高い意識をもって取

組んだこと、二つ目に、研究開発プロジェクトの立ち上げについて、企業のニーズをしっかりと聞いて積極的に企業を巻き込んで外部資金等へ申請した結果、三つ目に、企業・大学等のマッチングについて、各センターに連携推進員を配置し、技術課題共有テーブルを活用して所内の情報共有を行い、当所だけでは対応できない案件について、企業と大学等を積極的に結び付けた結果と考えている。

○全体として非常に良い結果を出していると思う。「技術支援業務に対する満足度」については、利用回数別でアンケートを分析することで、リピーターの方は満足度が高く、利用回数の少ない方は満足度が低い傾向があれば、目標未達を問題視するものではないと思うが、いかがお考えか。

→今のところリピーターの方と新規の方との満足度の差に関して分析できていない。アンケートの内容や分析方法を検討する際の参考にさせていただく。

○AI に関する相談等の案件数は増加傾向にあるのか。より広く AI×製造業での活用事例の横展開があると、県内企業の生産性向上、工程自動化、品質管理や人手不足等の課題解決に AI が活用されていくと思うが、見解を伺いたい。

→増加傾向にある。AI に関する技術支援について、様々なチャンネル、セミナー、弊所ホームページなどの活用やにいがた産業創造機構とも連携して PR している。今後も、より広く周知を進める取組みをしていきたい。

○「研究開発業務に対する満足度」が令和 6 年度から 10%近く上がっているが、高い満足度につながった理由を教えてください。

→中期計画の目標値達成に向けて職員が努力した結果が理由の一つである。加えて、昨年度の評価委員会での提言を受け、アンケートの取り方を改善し、技術支援と研究開発を分けてアンケートを実施し、企業担当者に直接回答を依頼したことで、より正確な評価が得られた結果と考えている。

意見交換 令和 8 年度事業計画

○企業訪問の際は技術課題だけでなく経営上の悩みなども聞き取り、企業の声を組織内に留めることなく外部機関との連携を図りオープンイノベーションを推進することを望む。

→企業訪問はオープンイノベーションのきっかけとして大変重要と思っており、今後は潜在的な企業ニーズなども聞き取りながら、積極的にオープンイノベーションを推進する意識を持って取り組んでいく。

○企業訪問数は数だけでなく質も大切である。企業訪問する職員には相応の負担がかか

と思うので、職員の働く環境の健全性を担保しつつ目標をクリアするバランスが必要であり、目標値を大きく上回る必要はなく、質的観点も含めあるべき姿を実現することが重要で、そのための数値目標 KPI と思う。

○オープンイノベーションの推進の取組みで連携推進員の配置と技術課題共有テーブルの運用とあったが、企業の課題解決のヒントになる良い仕組みと思う。その運用形態について簡単に説明をお願いしたい。

→技術課題共有テーブルは各センターの管理職等が連携推進員となり、各職員が企業から聞き取りした課題のなかで、その職員が所属するセンターだけでは解決できない案件をテーブルに記載し、所内で情報共有しながらオール総研で全センターが連携して、解決可能なセンターでの対応や、大学、企業等につなぐことで解決を図る形で運用している。

○職員には得意不得意の分野があるので、その職員では解決が難しい案件が技術課題共有テーブルに記載されるものか。

→企業から聞き取りした課題の中で、職員の専門性や所属するセンターの設備も含め、対応できない案件を当該テーブルに記載している。

○工技総研内部で解決できるものは、課題共有テーブルに記載して解決し、工技総研の中で解決できれば大学あるいは他の公設試などの外部機関と連携するよりも早く解決できる可能性があるということか。解決できなければ、外部機関と連携して解決していく仕組みという考え方でよろしいか。

→そのとおりである。

○コア技術高度化事業は着実に成果が出てきていると思うが、その推進体制はテーマごとにチームリーダがいて、何人ぐらいで取組まれているものか。

→各テーマは概ね3人から5、6人ぐらいで取組んでいる。

○研究開発について成果が出た場合、インセンティブのようなものがあるのか。

→特にインセンティブのようなものはない。ミーティングなどで成果を出した職員をねぎらうことで、職員のモチベーションが上がることを期待している。

○オープンイノベーションの推進は、技術課題共有テーブルを用いた新しい取り組み方法で大きな成果を上げたことから、目標値を1割から2割上げてはどうか。

→令和7年度が中期計画の初年度であり、今回の結果が上振れしている可能性もあるため、3年間の事業実績をもとに指標となる値を精査し、次の目標値を考えていきたい。

○研究開発の推進では、トリクレンなど地場の課題に着目して競争力をつけることは非常に良い。県としてもこの課題の改善に取り組んでほしい。

→研究開発の取り組みでは、いわゆる先端技術に取り組むとともに地場の課題や県内企業の技術ニーズを拾い上げ、引続き取組んで行きたい。

○企業訪問の活動は訪問件数だけでなく、職員の健康へのケアも含めると質が重要であり、指標があると企業訪問の質の見える化や分析ができると思うが、いかがお考えか。

→企業訪問した内容はデータベース化しており詳細を分析することも含め、今回いただいたご意見も参考に今後も企業訪問に取り組んでいく。

○オープンイノベーションの推進については、AI を活用した幅広いシーズの探索や人に依存しない連携の仕組みの構築などの取り組みも有効と考えるが、いかがお考えか。

→産技連の活動を通した他県公設試等の研究者との繋がりをもとに人的ネットワークを広げながら、大学や研究機関のシーズ集も活用して、企業ニーズと大学等のシーズの結びつけを行っているが、AI 活用は今後必要であり、ご提言も参考にしながら推進していきたい。

○「技術支援業務に対する満足度」に関するアンケートの目的は顧客満足度のアピールと不満点のすくい上げと思う。少数意見や満足度の低い意見にも目を向けることで、今後の取り組みの改善の方向性が見えると思う。また、アンケートも全体的な話もあれば、カテゴライズされていて満足点、不満点がそれぞれどこにあって、どこに改善の余地があるのか分析しながら進めてもらいたい。

→少数意見は収集しており概ね満足のコメントが多い。やや不満や不満のものについては、コメントを分析しながら改善につなげる活動を実施していきたいと思っている。また、やや満足だけでなく不満であった方も、次回は満足となるような取り組みも行いたいと考えている。